

平成29年第13回花巻市教育委員会議（定例会）議事録

1. 開催日時

開会 平成29年12月19日（火） 午前10時40分

閉会 平成29年12月19日（火） 午前11時30分

2. 開催場所

石鳥谷総合支所 3-2、3-3会議室

3. 出席委員（4名）

委員 照井 善耕（委員長）

委員 中村 弘樹

委員 役重 眞喜子

委員 佐藤 勝（教育長）

4. 欠席委員（1名）

委員 伊藤 明子

5. 説明のため出席した職員

教育部長 布臺 一郎

教育企画課長 岩間 裕子

小中学校課長 沼田 弘二

こども課長 高橋 靖

文化財課長 酒井 宗孝

6. 書記

教育企画課 課長補佐 佐々木英智 係長 大竹誠治

上席主任 佐々木晶子（書記）

○照井善耕委員長 只今から、平成29年第13回花巻市教育委員会議定例会を開会します。会議の日時、平成29年12月19日、午前10時40分、会議の場所、石鳥谷総合支所 3-2、3-3会議室。日程第1、会期の決定であります。本日一日とすることに
ご異議ありませんか。異議なしと認め、本日一日と決定いたします。

日程第2、報告事項に入ります。事務局から報告をお願いいたします。布臺教育部長。

○布臺一郎教育部長 平成29年第4回（12月）花巻市議会定例会教育関係事項について報告いたします。お手元の資料No.1をご参照いただきたいと思います。まず、一般質問
であります。一般質問は登壇議員12名中6名の議員から質問がありました。各質問に対

する答弁内容は別添のとおりですので、具体的な質問内容、答弁内容につきましては3ページ以降をご参照いただきたいと思います。

登壇番号2番の本館憲一議員でございますが、保育環境の整備について2点ご質問をいただいております。

1点目の保育士不足と確保策について伺うとして、市内での保育士不足数の見込みとその原因について、それから、保育士確保策の効果について質問をいただいております。1つ目の市内での保育士不足数の見込みでございますが、11月1日現在の保育所入所の空き待ち児童92名に対しまして、合計で28名の保育士が不足している状況を報告したところでございます。質問には幼稚園教諭の不足についてもお尋ねがありましたが、幼稚園教諭につきましては不足している状況とは捉えていないと答弁したところであります。保育士不足の原因につきましては国で行った調査の結果がございまして、「賃金が希望に合わない」、「他職種への興味」、「責任の重さ・事故への不安」が上位を占めていると報告をしたところであります。また、市内に潜在保育士が何人いるか把握しているかというお尋ねがございました。保育士資格の登録は都道府県となっておりますが、住所の異動について届出義務がないことから、県内や市内において保育士有資格者が何人いるか数字として把握していないと回答しております。次に、2つ目の保育士確保策の効果であります。これにつきましては6月定例会で保育士確保対策事業として承認いただいたものですが、11月末現在の状況は、保育士等復職支援者登録者数は13名、うち就職に結びついた方が2名、それから、再就職支援金10万円の貸付を受けた方が1名となっております。保育士のお子様の保育料減免については、減免68名、補助15名となります。なお、登録いただいている方のうち、来年の4月から3名の方が就職を予定されておりますし、残り8名の方についても家庭の状況によってはすぐにでも就職できるという意思があることを確認してございます。

2点目は、待機児童解消について伺うとして今後の保育施設整備の予定について、それから、定員に満たない保育園への待機児童の誘導についての2つの質問がございました。1つ目の今後の保育施設整備の予定でございますが、民間の保育事業者1か所の施設整備について9月定例会で補正予算をお認めいただいたことを説明しておりますが、その他の社会福祉法人においても来年5月を目途に小規模保育所の開始が予定されており、また、来年4月からは公立による小規模保育所の設置を進めているところであって12月定例会に補正予算を計上しているという説明をしたところでございます。2つ目の定員に満たない保育園への待機児童の誘導でございますけれども、入所の空き待ちをされている保護者の方々へ送迎サービスの実施に関する利用意向調査を実施したところでありますが、その結果としては、お子様の体調が不調の時の迎え等の不安から利用の希望がほぼございませんでした。このことから実施を見送ったと説明をしたところであります。

3点目の花巻市公立保育園再編指針について伺うということで、3つの質問がございました。1つ目の民営化を推進する理由とその方針についてでございますが、花巻市公立保育園の再編について、花巻市公立保育園再編指針の中で4つの目標を掲げており、再編の目標達成の手法として民営化を進めることにしております。その理由といたしましては、社会福祉法人等に移管することによって、多様化する保育ニーズに迅速かつ柔軟に対応で

きることが期待できることや、移管後の保育内容の検討により、公立園の持つ保育力と民間園の多様性のある保育環境の提供が図られるなどの利点があると捉え、移管先法人や保護者、地域、職員等と協議を重ね、再編第1期実施計画を進めていることを答弁いたしました。2つ目の第2期実施計画における意向調査の結果でございますが、移管希望があった具体的な保育園名についてはお答えを差し控えることにしたところですが、希望される園が3園あったことを報告しました。今後のスケジュールでございますけれども、予定通り推進していく考えで意向調査実施後も検討を進めてまいりましたが、秋口から予想を超えて生じている待機児童の発生という現状を踏まえて、待機児童解消が喫緊の課題であると捉え、解消の一方策として公立による0歳児から2歳児までをお預かりする小規模保育事業所の開設を進めております。また、今後において保育を継続する3歳児以上の受け皿も必要となることから、既存の公立保育園での受け入れに向けた施設の増設による対応も行わなければならないと考えていると答弁いたしました。3つ目の民営化とならない公立保育園の統廃合の検討についてでございますけれども、花巻地域以外の3地域については、子どもにとって一定の集団規模が確保され多数の同年代との関わりが持てることや多様な体験を積むことによりコミュニケーションの力や社会的態度を身につけるなど、望ましい保育の提供が可能であること、また、財源、人材の集約化による保育環境の充実につきましても効果があると考えことから、適正規模による運営を目指すこととしており、第2期実施計画により民営化が完了後に、保護者や地域関係者、保育関係者と協議を慎重に行い、実施することについては方針に変更はないと答弁をしたところであります。ただし、入園希望者の激減など特別な事情が生じた場合は、迅速に対応していかなければならないものと答弁したところでございます。

登壇番号3番の照井省三議員でございます。同様に、保育行政についてご質問をいただきました。

1点目の公立保育園の再編計画について伺うとして、入園者数が定員を満たしていない少人数の保育園の今後の運営方針について、それから、花巻市公立保育園再編第2期実施計画における民間法人への移管の検討状況について質問がございました。1つ目の質問でございますけれども、11月1日時点において定員に達していない公立保育園は12園中10園で、そのうち入園者が定員の50パーセント未満となっている保育園は3園あります。大迫地域の内川目保育園、東和地域の浮田保育園と小山田保育園でございます。今後の運営方針につきましては、利用者が50%未満となっている保育園の状況ですけれども、利用率16パーセントの内川目保育園については、本年7月に大迫保育園との合併に対する要望書の提出がございましたので、これまで地域と様々な協議を続けていると報告しているところであります。現在、来年4月からの市内保育園入園申込を行っているところですが、現在のところ第一希望として内川目保育園の入園希望はないと回答をしたところであります。東和地区の2園、浮田保育園と小山田保育園の利用率はそれぞれ33%、37%となっており、一定の保育ニーズがあると答弁しているところであります。2つ目の、花巻市公立保育園再編第2期実施計画における民間法人への移管の検討状況については、第2期実施計画の実施につきましては、意向のあった市内法人と協議を行い、保育の量の確保についてご理解をいただきながら進めることが必要と考えており、計画の実施時期につ

きましては当初の平成30年度開始予定を見直すことも視野に検討を行っている」と答弁したところであります。

2点目は保育園の空き待ち・待機児童の解消策について伺うとして、2つの質問がございました。1つ目の小規模保育園を新たに設置する場合の保育士等の確保でございますが、今回、市で開設を予定しております小規模保育園につきましては、管理者1名、保育士6名、調理員1名、合計8名を予定しており、管理者とクラス担任となる保育士2名は正職員、その補助となる4名及び調理員は非常勤職員による配置を検討していると答弁したところであります。2つ目の幼稚園の認定こども園への移行についてでございます。3歳未満児10人程度を受け入れることを想定した場合、このような施設の整備に必要な面積は基準からみますと最低でも45㎡と見込まれるところであります。現時点で、花巻幼稚園、土沢幼稚園の立地状況を考えますと、面積を確保することは難しいだろうと答弁をしたところであります。

登壇番号4番の伊藤源康議員でございます。教育振興についてということで、学校図書館の現状と充実に向けた取り組みについてとコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）及び小規模校における合同授業への考えを伺うということで2点の質問をいただいております。

1点目につきましては、基準に基づいて司書教諭等の配置を行っている旨回答しております。今年度から将来的な学校図書館の充実を図るために学校図書館支援員を1名配置して、市内全小中学校を巡回しながら実態を把握し、助言等を行っている現状について回答したところであります。

2点目のコミュニティ・スクールについては、現在、岩手県内の4町村で導入されておりますが、花巻市では、平成28年度から学校地域連携事業として矢沢小学校及び湯口小中学校をモデル校として指定し、地域の人材を地域コーディネーターとして配置し、児童生徒や地域の実態に応じた事業を展開している旨答弁したところであります。教育委員会としてはコミュニティ・スクールを直ちに設置する必要はないと捉えておりますが、これまで長い間継続してきた教育振興運動、それから、岩手型コミュニティ・スクール構想をしっかりと評価したうえで学校地域連携事業の取り組みを勘案しながらコミュニティ・スクールの導入について調査・研究をしておりますと答弁したところでございます。小規模校の合同授業について、具体的な取り組みといたしましては、笹間第一小学校と笹間第二小学校、大迫小学校と内川目小学校と亀ヶ森小学校で年4回の実施している合同学習の実例を報告したところであります。中学校については、複式学級を有する学校がないので、合同授業は実施していないという答弁をしたところであります。

登壇番号5番の大原健議員であります。学校におけるICT（情報通信技術）環境について、現状と今後の整備計画について伺うという質問でありました。現状についてプロジェクターやタブレット端末等の配置状況をお答えしたところであります。大原議員からは再質問がありまして、生徒1人1人にタブレット端末1台を配置する予定はないのかという内容でございました。これにつきましては、国で定めている目標が生徒3.6人に対して1台となっていることを説明し、花巻市の現状が6.77人に1台でありますので、まずは国の定めている基準に向かって配置を進めていることを説明するとともに、県内では

東北本線沿線の7市で見ると、だいたい真ん中に位置している現状について答弁したところであります。

登壇番号6番の高橋浩議員でありますけれども、新興製作所跡地上部平坦地について2つの質問がありました。

1点目は、開発行為に伴い解体することに対する考えを伺うということで、本年1月に開催しました考古学や城館研究の専門家で構成する花巻城跡調査保存検討委員会において、開発にあたっては、全面的な発掘調査の実施を前提とすること、また、未了となっている本館・別館建物跡地の確認調査を実施することとして、市の方針を理解し、承認するというご意見をいただいたことを報告したところであります。教育委員会といたしましては、花巻城を構成する当該地が開発行為により失われることになる場合は、記録保存による措置の方針に基づき対応してまいらる旨答弁したところであります。

2点目の城跡としての形状を維持するための保全策についてでございますが、花巻城三之丸の一角を構成する当該地は、民間所有地であることから、文化財保護法上開発行為に対して制限をすることができないこととなっております。従いまして、今後、当該地の開発行為がどのように行われるかにつきましては現時点では明らかではありませんが、開発が行われた場合には、遺跡を現状保存することは極めて難しいと認識していると答弁したところであります。

登壇番号10番の藤井幸介議員であります。教育行政として3点の質問をいただいております。

1点目が道徳の教科化について伺うとして2つの質問がございました。1つ目は、これまでの道徳教育との違いと児童生徒への期待する効果についてでありますけれども、これまで一般的な手法であった登場人物の心情を理解しながら展開する手法を改善して、さらに、考え、議論等踏まえて深い理解を得る道徳が重視されますので、児童生徒一人一人が、答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題として捉え向き合い、「考え、議論する道徳」への質的転換により、道徳的な判断力、心情、実践意欲が育ち、生きるための基盤となる道徳性が養われることが期待されていると答弁したところであります。2つ目の授業開始に伴う課題についてでございますが、既に昨年度中から道徳科に対する理解を深める取り組みを行っており、授業時間についてもこれまでの道徳の時間と同様、年間35時間となっているので授業時間の確保については特に問題はないと捉えていると答弁したところであります。

2点目の教育振興運動において、平成27年度からの全県共通課題として「情報メディアとの上手な付き合い方」の本市の取り組み状況についてでございますが、これについては、今年9月に各実践区や学校教職員を対象とした情報メディア研修会を開催しており、それによって、スマートフォン等の情報メディアに関わる現状について共通理解を図って、課題の共有をしていることを答弁したところであります。また、11月中旬に、市内の小中学校2年生及び4年生の保護者の方々を対象にアンケート調査を実施しており、携帯電話やスマートフォン、インターネットに接続可能なゲーム機器等の所持や利用状況について調査を行いました。この結果は現在集約中でございますけれども、来年2月に開催する集約会議の場において、アンケート調査結果を踏まえて課題や問題点を洗い出し、来年度の

重点活動の視点を明らかにすることを答弁したところであります。

3点目の「いのちの授業」の必要性と取り組み状況につきましては、市内各校の取り組みについて報告をしたところであります。

続きまして、議案審議であります。原案のとおり可決しております。

1. 花巻市教育委員会委員定数条例につきましては、先般の教育委員会議で意見聴取をいただいたところであります。議案審議の内容ですが、意見聴取会議での教育委員の意見の内容についてお尋ねがありましたのでご報告をいたしました。また、委員定数の背景となる新教育長制度について質問がありましたので、それについてお答えいたしました。

2. 平成29年度一般会計補正予算（第6号）の内容でございます。歳入でありますけれども、国庫補助金（教育費）89万円は幼稚園就園奨励補助金であります。それから、県補助金（民生費）72万4,000円は保育士産休等代替えであります。当初予算で計上しているこれら2つの補助金について、決算見込みに基づいて整理をいたしまして、それに伴う歳入の増額を計上したものであります。教育寄付金の50万円は湯本小学校と湯本中学校の図書購入に充ててほしいというものでございました。市債の1,010万円は、現在改築を行っております、こども発達相談センターの隣に駐車場を整備する財源でございます。次に、歳出でありますけれども、こども発達相談センター改築事業の1,062万8,000円はこども発達相談センターの駐車場整備工事であります。これは来年度に整備を予定しておりましたけれども利用者の利便性の確保、安全性の確保のため施設整備と併せて今年度中に整備することとしたものであります。保育施設運営支援事業の267万6,000円は、先ほど歳入でご説明しましたが、私立保育園産休等代替職員費補助金等に充てるものであります。保育所保育環境充実事業2,864万5,000円は公立で運営いたします小規模保育園開設に係る経費であります。それから、一般行政経費（事務局費）の206万円は、教育委員会事務局に係る時間外勤務手当に不足が生じていますので補正するものであります。それから、一般行政経費（小学校教育運営費）の141万4,000円と一般行政経費（中学校教育運営費）の253万7,000円については、先ほど寄付金でご説明しました湯本小と湯本中の図書購入費にそれぞれ25万円ずつ、合わせて50万円でございます。それから、要保護・準要保護児童援助の単価の改定がありまして、単価が増えたことに伴う増額です。また、国の制度である保護制度で入学準備金が入学する前の年度に支給できることになりましたので、市単独の準要保護支援事業においても同様に前年度にお金を支払うために措置をするものです。それに伴う必要経費を補正予算として計上したものであります。幼稚園教育環境充実事業の266万8,000円については、私立幼稚園就園奨励費補助金の決算見込みに伴う補正であります。最後に、一般行政経費（学校給食費）の55万円については給食管理室にかかる時間外勤務手当が不足しているためこれを補正するものであります。

3. 花巻市小規模保育園設置条例は最終日に追加提案したものでありますけれども、公立の小規模保育園を設置するにあたって、公の施設の設置条例の提案をしたものであります。今回整備する小規模保育園につきましては、民間の施設を借り上げて整備することになっておりまして、施設借り上げに必要な予算が12月定例会で審議をされ可決されました。この可決を待ってから物件を借り上げる契約を行う必要がありましたので、契約

を行って市の施設として整備できる権限を有した後に公の施設設置条例を提案するため、追加提案となったものであります。これにつきまして特に異論はなく、月額施設借上げ料はいくらであるかご質問をいただいたところであります。以上、簡単ではありますがけれども12月定例会の教育関係事項の報告といたします。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。只今の報告について、何か質問がありましたらお願いいたします。

○役重眞喜子委員 質問ではないのですが、一般質問のコミュニティ・スクールに関係する答弁で花巻市としてはこれまでも十分やっているという趣旨の答弁だったと思います。私も全くその通りで良いと思っていて、国からは色んな制度が示されますけれども、今やっていることをしっかりやっていく、そして検証していくスタンスは全くその通りだと思っています。それから、お願いですけれども、定数条例と小規模保育所の設置条例が新しく出来た条例ですので、後で写しをいただきたいと思います。

○照井善耕委員長 他にございませんか。

ひとつ質問ですが、内川目保育園の入園率が16%で、大迫保育園との合併に対する要望書が出ている、しかも、第一希望なしということは、もう、該当の子どもさんがいる方も大迫保育園の方を向いてやっているということでしょうか。

○佐藤勝教育長 この答弁の後、12月14日に2回目の内川目保育園のあり方の検討会議を行いました。来年入園予定者が当初4人いて、そのうち3人は大迫保育園を希望していて、残る方についてもそちらの方向になって、結局、第一希望ではなくなったということです。そこで、どのようにしていくかということで、こちらから休園あるいは統合、閉園ということもお話ししましたが、地域の方々からも、これから入園の見込みがないのであれば、休園してから閉園式をやっても参加しないだろうということで、今年で閉園という意見を皆様からいただきました。そして、意見の中では3月24日の卒園式が終わった後に閉園式をやった方がいいんじゃないかということでした。ただ、保護者の方々や地域の方々からはこのことによって内川目小学校のことも、区域外就学になれば入学者がなくなるんじゃないかということでした。ただ、保育園と学校の選択は別ですので学校は学区として考えていかなければならないとお話しをしましたが、まずは保護者会で勉強会を始めましょうと、いきなり結果を憂慮するのではなくて、将来的な子ども達の姿を描きながら検討していきましょうということで終わりましたので、いただいた結果を大迫地域協議会に報告したり、閉園についてスケジュールを立てて丁寧にやっていかなければならないと思います。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。他にございませんか。中村委員。

○中村弘樹委員 来年度は小規模保育園が何園出来るのですか。自分で作る人もいると聞

いておりますがどうなんでしょうか。

○高橋靖こども課長 小規模保育園について、今現在の予定でございますが、民間では4月、5月の段階で2園の予定がございます。1つは、現在認可保育園を運営している法人で設置する予定でございますし、あと1か所は個人の方が運営をする園です。それから先ほど部長から報告したとおり公立の小規模園1か所ということで事業として進めている状況でございます。

○中村弘樹委員 3園ですか。

○高橋靖こども課長 そうです。

○中村弘樹委員 小規模保育園を作る時には教育委員会に報告をしてからということですか。

○高橋靖こども課長 認可が市ですので、設置基準等に合わせていただくことになりまして、一旦、ご相談をいただきながら進めていただくことになります。

○照井善耕委員長 他にございませんか。

私から質問ですが、何か情報メディアに絡む子ども達の問題とか、あるいは先生方の対応とか、教振とか生指連とか特定のところには情報が流れていると思うんだけど、一般市民にはどうですか。

○沼田弘二小中学校課長 情報機器のガイドラインを生徒指導連絡協議会で作成しまして、それを各校にもお配りしておりますし、広報にも載せておりますので、一般の市民の方にも周知を行っている状況です。

○照井善耕委員長 わかりました。皆で「使い方を誤ると大変だよ」とか、あるいはいろんな所で研修をして、いつでも相談に乗れる雰囲気を作っていないと、スマホの所有率が上がっても不安が募ったり、抱え込まれたりすることもあると思うので、どんどん皆で誤らないようにやっていく必要があると思いました。

他にございませんでしょうか。

○佐藤勝教育長 教育委員会で学校を中心として情報メディアをやっているのですが、やっぱり生涯学習の中でやっていただきたいです。まず大人が基本です。それを子ども達のいたずらというだけで対処的なことをやるよりは、もう少しPTAとか生涯学習、コミュニティとかそういったところにシフトしていかないと浸透していかないんじゃないかと思います。使っているのは圧倒的に大人の方が多いですから、もう社会問題のような気がします。

○照井善耕委員長 刃物と同じだと思うんだけど、刃物が悪いわけではなくて使い方な訳だから、それをおじいちゃん、おばあちゃんも語れるような感じでやっていかないとなかなか大変なことだと思います。せっかく良いものでもあるので、できれば皆でよい使い方をしていこうとなれば良いですね。

○佐藤勝教育長 今回答弁もしましたが、今、保育園・幼稚園の子どもも使っている時代です。保幼小の連携とか保護者の方にも、機会があればいろんな場面で情報提供をしていますし、もっと本来的な遊びをやってほしいということは伝えております。

○照井善耕委員長 他になれば、報告に対する質疑を打ち切りしますがよろしいでしょうか。それでは質疑を終結します。

それでは、次の事項について、事務局から報告をお願いします。沼田小中学校課長。

○沼田弘二小中学校課長 平成29年度「学校保健及び学校安全表彰」被表彰者について報告いたします。資料No.2をご覧くださいと思います。文部科学大臣が学校保健及び学校安全の普及と向上に尽力し、多大な成果を上げた個人、学校、団体等を表彰する平成29年度学校保健及び学校安全表彰について、本市から花巻市学校歯科医の狩野裕史氏が表彰されましたのでご報告いたします。

概要ですが、都道府県及び国立大学法人において学校保健又は学校安全の推進に功績があり、かつ、その成果が学校保健又は学校安全の全国的な水準の向上に貢献した個人及び団体に対して、その功績をたたえて文部科学大臣が表彰するものであります。

被表彰者につきましては、狩野裕史氏、68歳、主な役職としては花巻市の学校歯科医として、桜台小学校学校歯科医として昭和61年から30年以上の長きにわたって貢献されたところであります。

その他の事項としまして、表彰式は11月16日に三重県で既に行われております。今回の学校歯科医の被表彰者は全国で48件でありましたが、そのうち本県からは2名、そのうちの1名が狩野先生です。詳細につきましては、別添の文化庁報道発表資料のとおりになっておりますのでご覧くださいと思います。以上で報告を終わります。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。何かございませんでしょうか。無いようですので、質疑を打切って終了いたします。

それでは、次の事項について、事務局から報告をお願いします。酒井文化財課長

○酒井宗孝文化財課長 平成29年度「地域文化功労者表彰」被表彰者について報告いたします。文部科学大臣が地域文化の振興に功績のあった個人及び団体を表彰する平成29年度地域文化功労者表彰について、本市から花巻市文化財保護審議会会長の菊池邦雄氏が表彰されました。

地域文化功労者表彰の概要でございますが、全国各地域において、芸術文化の振興、文

化財の保護等、地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対して、その功績をたたえて文部科学大臣が表彰するものでございます。

被表彰者でございますが、菊池邦雄氏、73歳、区分といたしまして文化財保護分野、主な役職といたしましては、花巻市文化財保護審議会会長、そして、石鳥谷歴史民俗資料館長を長く勤められております。

その他といたしましては、表彰式は11月22日に文部科学省において実施されまして、菊池氏ご本人が出席されました。今回の被表彰者は97件（個人74名、団体23団体）で本県からは2名が表彰されております。詳細につきましては、別添の文化庁報道発表資料をご参照いただきたいと思います。以上、報告といたします。

○照井善耕委員長 只今の報告について、何かございませんでしょうか。なければ質疑を終了といたします。

その他何かございますか。それでは、以上で、本日の議事日程はすべて終了しました。本日の教育委員会議は、これをもって閉会といたします。